

ポール・ジャクレー フランス人が挑んだ新版画

2023年6月3日（土）～7月26日（水）

前期 6月3日（土）～6月28日（水）

後期 7月1日（土）～7月26日（水） 前後期で全点展示替え



展覧会概要

フランス・パリに生まれたポール・ジャクレー（1896～1960）は、3歳の時に来日し、64歳で亡くなるまで日本で暮らしました。昭和9年（1934）、38歳の頃から、南洋やアジアで暮らす人々を描いた木版画を続々と刊行します。昭和前期は、絵師、彫師、摺師の協同作業による「新版画」が盛んとなった時期でしたが、さまざまな国の老若男女が暮らす姿を鮮やかな色彩で描いたジャクレーの作品は、当時の新版画の中でも異彩を放っています。本展覧会では、ジャクレーが挑んだ新版画の魅力をご紹介します。

本展の見どころ

ジャクレーの新版画、全162点を首都圏で初めて展示

本展ではジャクレーの新版画、全162点を、前期と後期に分けて展示します。全162点が紹介されるのは、首都圏では初めての試みです（国内では、2021年に長野県の軽井沢町追分宿郷土館で開催された「軽井沢を愛したフランス人浮世絵師 ポール・ジャクレー全木版画展」のみ）。ジャクレーの新版画の全貌を鑑賞できる貴重な機会です。

南洋の人々を鮮やかな色彩で描く

ジャクレーの新版画の一番の特色は、サイパン島やヤップ島といった南洋のミクロネシアの島民たちを色彩豊かに描いている点にあります。ジャクレーは30代前半となる昭和初期、当時、日本の委任統治領となっていた南洋の島々に何度も長期滞在し、島民たちと親交を深めながら、数多くの水彩画を描いており、それが新版画の制作へとつながりました。世界の人々を鮮やかな色彩で描いたジャクレーの新版画は、デジタルの色彩に親しむ現代の私たちに新鮮な驚きを与えることでしょう。

新版画において異彩を放つ存在

新版画とは、大正から昭和にかけて、絵師、彫師、摺師の協同作業によって制作された木版画のことです。通常、渡邊庄三郎のような版元が制作を主導しますが、ジャクレーの場合は、自らが彫師と摺師を指揮する私家版という珍しい手法を取ることで、独自の芸術性を追求しました。また、戦後は、マッカーサーをはじめとする日本駐在のアメリカ軍関係者から好評を博し、流通の面でも、他の新版画の絵師たちとは異なる路線を築きました。

江戸の浮世絵の系譜に連なるジャクレー

幼い頃から日本に暮らしたジャクレーは、日本語が達者であるのはもちろん、浮世絵や歌舞伎、義太夫など、日本人以上に伝統的な日本文化に精通していました。特に浮世絵は、幼い頃から収集や模写をしており、10代の頃には、月岡芳年の孫弟子にあたる池田輝方・蕉園夫妻から日本画を学び、喜多川歌麿風の肉筆美人画を制作するほどでした。また、藤懸静也や野口米次郎といった浮世絵研究者たちとも親交がありました。

ジャクレーの著作権について

ジャクレーは1960年に亡くなりましたが、日本が第二次世界大戦に参戦した1941年12月8日以前に制作されたフランス人作家の作品については、著作権の保護期間に関する戦時加算が行なわれたため、現在でも著作権保護期間中となっています。(1)～(5)の作品画像を掲載する際には、必ずクレジット（コピーライト）を記載してください。

※(1) ~ (5) の作品画像を掲載する際には、必ずクレジット（コピーライト）を記載してください。



(1) ポール・ジャクレー「貝を持つマナラップの女」(個人蔵)
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5060 後期展示



(2) ポール・ジャクレー「極楽鳥、セレベス」(個人蔵)
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5060 前期展示



(3) ポール・ジャクレー「檳榔の実、ヤップ島」(個人蔵)
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5060 後期展示



(4) ポール・ジャクレー「オロール島の少年、東カロリン」(個人蔵)
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5060 前期展示



(5) ポール・ジャクレー「打ち明け話の相手、連作「満州宮廷の王女たち」より」(個人蔵)
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5060 前期展示



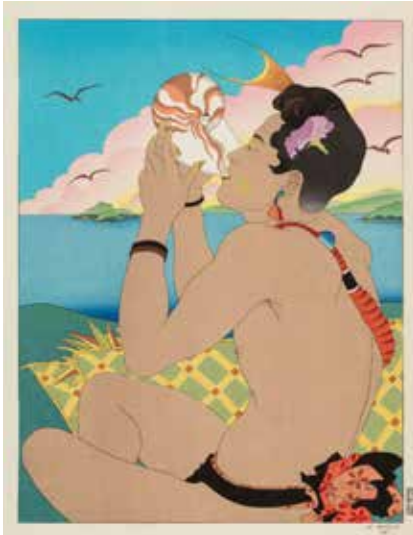
(6) ポール・ジャクレー「真珠、満州」(個人蔵) 前期展示



(7) ポール・ジャクレー「太平洋の神秘、南洋」(個人蔵) 前期展示



(8) ポール・ジャクレー「おけさ踊り、佐渡」(個人蔵) 前期展示



(9) ポール・ジャクレー「オウム貝、ヤップ島」(個人蔵) 後期展示



(10) ポール・ジャクレー「黒い蓮華、中国」(個人蔵) 後期展示

タイトル ポール・ジャクレー フランス人が挑んだ新版画

英タイトル Woodblock Prints Exhibition of Paul Jacoulet

会 期 2023年6月3日(土)～7月26日(水)

前期 6月3日(土)～6月28日(水)

後期 7月1日(土)～7月26日(水) 前後期で全点展示替え

開館時間 午前10時30分～午後5時30分(入館5時まで)

休館日 月曜日、6/29-6/30(展示替えのため)

入館料 一般1000円 大高生700円 中学生以下無料

アクセス JR山手線 原宿駅(表参道口)より徒歩5分
東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅(5番出口)より徒歩3分

問合せ 050-5541-8600(ハローダイヤル)

公式サイト <http://www.ukiyoe-ota-muse.jp/>

公式Twitter @ukiyoeota

後援 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ

会場・主催 太田記念美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-10-10

TEL 03-3403-0880 FAX 03-3470-5994

E-mail om@ukiyoe-ota-muse.jp

展示担当: 日野原健司 広報担当: 金塚さくら



太田記念美術館
公式サイト



画像申請・取材
の申込はこちら